

## 論文審査の結果の要旨

論文提出者氏名：愛みち子

本論文は、1997年に中国へ返還された香港が直面した新しい移民問題、特に児童移民問題、と居留権問題について、香港社会に特有の移民社会としての性格を歴史的に議論した上で、新たに成立した香港基本法とその解釈をめぐる中国本土と香港社会の対抗をひとつの軸にして、今後香港社会が抱えていくであろう問題を指摘しようとした意欲的な研究である。

また150ページを越える本文の他、詳細な新聞記事や裁判の判決文などの資料を付録としてつけてあり、本論文が膨大な一次資料の収集とその読解の上に成り立っていることが分かり、本人の努力の成果を読みとることができる。

返還後の香港は「一国二制度」という独自の制度のもと、中国の政治的な支配下に戻るとともに、英国支配以来の制度を残しながら、移民社会として、また重要な経済的拠点として、新しい道を進むべく試行錯誤の時代に入り込んだ。しかし返還直後に待ち受けていたのは、大量の児童移民が香港の居留権を求めて殺到するという、当初予想をしていなかった社会的な事件であった。本論文は、この問題を、中国政府、香港における法曹界、人権団体、などの主張に焦点を当てながら、特に居留権請求裁判の経過を丹念に分析することにより、香港が抱えている問題点を抽出しようとしたものである。

審査委員は全員、本論文が本学総合文化研究科の課程博士の水準を十分にクリアしているという点で一致したが、個々の審査委員からはそれぞれ次のような問題点、及び今後の研究に活かすべき課題や要望が指摘された。1) 本論文の特色の一つは、香港社会の構造をフロー型移民社会として捉える点にあるが、香港への移動に力点が置かれ過ぎていて、香港から出ていく移民との関係が見えてこないこと、2) 「法治」と「人権」が重要なキーワードであるが、これらの理念の担い手である、法曹界やインテリ、人権団体の社会的な、あるいは経済的な性格が論じ足りないし、それらの社会学的な分析を行うことで論文はさらに説得力があるものになったであろうということ、3) また、これらインテリ層が受けたイギリス的な教育や制度（たとえば司法制度はイギリスの制度を踏襲していた）の性格が、今後の香港社会においてどのように変質していくのかという点、4) 居留権をめぐる訴訟ケースの時系列的叙述にずれがあり、テ

ーマを優先させて章立てを行おうとした意図は理解できるが、今後発表するときには、叙述をさらに検討する必要があるだろう、等といった点が指摘された。

しかしながら、こうした問題点を残しながらも、現代の香港社会が持っているバイタリティについての洞察と、それを軸に据えて、移民社会の特質に焦点を当てながら返還後の香港社会の行く末を見極めようとした姿勢は、高い評価に値するものである。また、今まさに香港で起きている、民主化と国家安全条例をめぐる大規模な政治問題を考える上でも、本論文が提起した枠組みが一定の有効性を持っているのではないか、という評価をも獲得した。

新しい問題にたいして果敢に取り組み、豊富な資料を駆使しながら、返還後の香港社会を、移民問題を通して分析しようとした著者の意図は十分に達成されたものと考えられる。

したがって、本審査委員会は愛みち子さんにたいして博士（学術）の学位を授与するにふさわしいものと認定する。